

令和8年3月6日

世田谷区立桜丘中学校

校長 山本 武 様

区立桜丘中学校学校関係者評価委員会

委員長 實野 雅太

令和7年度学校関係者評価委員会報告書

1 はじめに

令和7年度世田谷区立桜丘中学校学校関係者評価委員会は、世田谷区教育委員会作成「世田谷区立学校 学校評価システム」に基づき、本校の取組の成果について評価し、ここに報告する。

本報告書は本委員会が学校関係者として関心を持ってきた「授業や日常生活」「校風の継続と本校への誇り」「教員の働き方」の3つの観点から本年度の本校の取組を評価する。さらに今年度のアンケートから浮き彫りになった「学年間の違い」、それから数年にわたって調査してきた生徒の読書習慣について報告する。

本報告書作成に用いた資料は次の通りである。

- ・ 生徒アンケート
- ・ 保護者アンケート
- ・ 地域の方々アンケート
- ・ 学校自己評価
- ・ 学校公開期間中の授業見学
- ・ 教職員へのヒアリング

2 授業や日常生活

今年度のアンケート調査にて、肯定的回答で特に顕著であった項目が“学校行事は、楽しい”であり、「とても思う」が74.7%と多数の生徒が学校行事への充実感を示した。同様に“学校行事は達成感がある”も72%の強い肯定を得られている。この結果は学校でしか経験できない体験の良さが伝わっているものと考えられる。支援が必要な生徒が多い桜丘中学校において、学校が楽しい場所になっていることは非常に好ましく、今後も継続して学校行事を企画・運営していただきたい。保護者アンケートからも“学校行事が楽しい”への肯定的回答は非常に高く、昨年度と比較して「とても思う」が10%上昇となっている。生徒を普段から見ている保護者にも伝わっていることが分かる。

学習に関して、昨年度の生徒アンケートと比較して学習についての質問項目は「とても

思う」がどの質問項目も 10%程度上昇し、最大 14.8%も上昇していた。「思う」も入れると肯定的回答も昨年度と同等の数値になるため、授業への満足度が向上していると言え継続をお願いしたい。

表 1 学習についての生徒アンケート結果

項 目	令和 6 年度	令和 7 年度
(1)先生は、課題について、自分で考えたり、友達と考えたりする時間を授業の中で取っている。	とても思う 56.8 思う 38.6	とても思う 46.4 思う 48.2
(2)先生は、黒板の書き方やプリントなどを工夫している。	とても思う 57.2 思う 37.1	とても思う 42.4 思う 50.1
(3)授業では、考えたことを話し合ったり、発表し合ったりする機会がある。	とても思う 57.5 思う 37.6	とても思う 48.9 思う 46.4
(4)先生は、映像やタブレットなどの ICT を利用し、分かりやすい授業をしている。	とても思う 58.2 思う 34.2	とても思う 45.5 思う 44.1
(5)先生は、提出物やテストなどを分かりやすく評価している。	とても思う 43.7 思う 41.3	とても思う 29.1 思う 49.5

学校行事や学習面での満足度が高くなっている反面、“学ぶことが楽しい”という質問項目は否定的回答が 24.4%と高い数値となっている（令和 6 年度も 25%）。ICT 機器を利用するだけでなく板書やプリントにも工夫がされていると 95%近くの生徒が回答しているにも関わらず、このような結果となっていることは留意しなくてはならない。特に、“授業では、考えたことを話し合ったり、発表し合ったりする機会がある。”の質問も非常に高い肯定的回答であるが、それは本来の主體的な学びとなっているか見直さなければならない。楽しい授業が展開されることも生徒にとって大事であるが、基礎基本を学び、その学びを次の学びに繋げる本質的な学びが求められているように考える。その興味を引き出せるよう先生方には教材研究をお願いしたい。また、教材研究や研修会などに参加できるよう先

生方の時間を確保できるよう学校にはお願いをしたい。

また、ヒアリング調査で ICT 機器は教員にとっても欠かせないツールになっていることが伺えた。各教科の特性に合わせた指導や進捗の遅れた生徒へのフォローアップができるなど肯定的な側面が挙げられた。その一方で、生徒の書く力は弱まっているといった意見もあり、デジタルとアナログの両者のバランスを取れるように指導もお願いしたい。近年、人工知能 (AI) の発展と普及が目覚ましく、大学生もレポートなどに AI を使うなどしている事例を多く見かける。しかし、AI にはゼロから 1 を作る事は難しく、独創的なアイデアを生み出せるのは人間である。デジタルを使いこなし、AI を相棒として本校の特色のような多様なアイデアを膨らませられるようアナログな体験や授業も生徒にとって必要不可欠である。

スマートフォンの使用については今年度から学校内での使用について制限がかかった。これまでに SNS をめぐるトラブルも発生していたため、質問の聞き方をより踏み込んだ形にし、保護者への質問にも人権への配慮を加えた。その結果を表 2 に示した。生徒はどの学年も 90%以上が肯定的な回答を示し、保護者も 80%以上と令和 6 年度までの質問よりも高い回答を得た。これが今後、桜丘中学校に定着していくか推移を見守り続けたい。

表 2 スマートフォンの使用についての評価

項 目	1 年生	2 年生	3 年生
生徒アンケート スマートフォン、タブレットの使い方は人権に配慮し、責任を考えて使用している。	95.3	91.7	96.6
保護者アンケート 我が子にスマートフォン、タブレットの使い方を、人権に配慮することや、責任を考えて使用させている。	87.3	82.0	85.4

今年度の評価委員会に SNS のトラブルについての報告もあり、学外で発生した事案について対応した教員から業務に当たるのか疑問が呈されている。スマートフォンの使用に関して保護者への周知と家庭教育を学校からも要請することを検討していただきたい。本評価委員会としても保護者の皆様にはご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

3 校風の継続と本校への誇り

本校の特色である “多様性を尊重する校風” と本校への誇りについて尋ねた結果が表 3 である (保護者には “桜丘中に入学させて良かった” の回答結果である)。これまでと同様、生徒、保護者ともに多様性を尊重する校風を残したいと考える回答が多かった。今後は特別支援級も併設させることからより一層、多様性のある生徒が増えることも予想される。

より何かの一言で傷つきやすい生徒が増えることも考えられ、生徒だけでなく教職員にも配慮を根差した言動を手本として示して頂きたい。本校の生徒たちの寛容さを教職員も感じており、今後の変化を見守っていききたい。

表3 多様性を尊重する校風の継続の希望と本校への誇り

項 目	生徒	保護者	地域の方々
多様性を尊重する校風を残したい。	91.9	82.0	80.7
桜丘中学校の生徒であることを誇りに思う。	82.1	76.8	—

本校の特徴としてホット、すまいる、サイレント等、生徒の状況に応じて学習できる環境を提供していることは非常に良いと思われる。特にサイレントは1人であることや、他者と関わらないなどのルールが人気となっている。アクティブラーニングや協働的な学びなども言われて久しいが、このような環境は一定数の生徒にとって望ましいものであると考える。

自由闊達な校風のためにも“社会のルール・マナーの理解と遵守”の評価項目は重要視している。今年度も同様に質問した結果が表4である。今年度は昨年度と同様の数値であった。今後も本校の生徒としての自覚を持ち校外で行動できるよう引き続き指導をお願いしたい。気になる点としては、「とても思う」の強い肯定が生徒は57.2%、保護者は35.0%、地域の方は12.9%となっており、よりこの数値を高めるよう指導をお願いしたい。

表4 社会のルール・マナーの理解

項 目	令和7年度	令和6年度
社会のルール・マナーを理解している。(生徒アンケート)	93.8	91.5
我が子に社会のルール・マナーを理解させている。(保護者アンケート)	91.8	88.4
本校の生徒はルール・マナーを守っている。(地域アンケート)	83.9	84.6

4 教員の働き方

教職員へのヒアリングなどを通して働き方改革が進み、多くの教職員は8時頃出勤して20時頃まで学校にいるようだ(居住が近い教員は7時ごろに出勤していることもある)。生徒の欠席連絡がオンライン上でできることや、越境入学を制限したなど教員の負担が減っていることは好ましい。職員室内での雰囲気も良くなっているが、情報共有については連携の強化をお願いしたい。ICT化が進んだ反面、情報を確認しているかまでは見取れずにいるケースも多いと聞く。また、業務上のファイルの保存場所について情報共有が少なく困っているケースがあり、単純な段階でのミスや仕事を減らせるよう教職員一体となって取り組んで頂きたい。

若い先生が非常に多く活気はあるが、教師は生徒の見本となることも忘れないでいただきたい。生徒の服装・髪型に自由度があったとしても社会人として範を示すことは他の学校と変わらない。多様性を尊重する校風も大事であるが、本校は“いち公立学校”であることを忘れずに職務にあたっていただきたい。この点は今後異動してくる教員や、異動する教員にとっても異動先での順応まで時間がかからず働き方改革に繋がると考える。

また、若手教員とベテラン教員の二極化した人員配置になってしまうとノウハウの伝達などがうまくいかなくなることもあり、中堅教員の投入でバランスを取れるようお願いしたい。

マンパワー不足は多くの業界でも指摘されているが、コーディネーターや不登校対応の人材が配置されたことで教員の負担が軽減されている。こういった多くの人材で生徒に関われる環境は今後も継続していただきたい。持続可能な労働環境が充実した指導に繋がるため、教育委員会には支援をお願いしたい。

5 学年間の違い

世田谷区立中学校に共通の項目で、肯定的回答に学年間で10ポイント以上の違いがあった項目を表6・7に示した。今年度は学年間で10ポイント以上の違いがあった項目は、保護者アンケートにおいて昨年度以上に非常に多かった。

生徒アンケートでは“学ぶことが楽しい”の質問項目で学年が上がるにつれて低下しており、受験を控え「勉強」の意識が強くなってしまい楽しさを感じにくくなってしまっているように感じられる。受験においてはその点は致し方無い側面もあり、結果がどのようであったとしても生徒が達成感を感じられるよう指導をお願いしたい。今年度の“部活動は、達成感がある。”の3年生は72.3%と、各学年の中で最も低くなっているが、昨年度の2年生時は69.9%でありほんの少し改善している。3年生に近づくにつれて塾に通っている割合が上昇しており、内申点対策として塾では定期試験を集めることもあるので、先生方においては試験問題の工夫と評価の観点についての客観性の確保に努めていただくようお願いしたい。

表6 10ポイント以上違いがあった項目（生徒アンケート）

項 目	1年生	2年生	3年生
生徒アンケート			
学ぶことが楽しい。	81.2	75.6	69.0
私は、塾で学習をしている。	63.3	70.3	86.4
学び舎の小学校に行ったり、小学生が来たりする機会がある。	57.8	46.5	45.3
部活動は、達成感がある。	85.9	85.5	72.3

表7 10ポイント以上違いがあった項目（保護者アンケート）

項 目	1年生	2年生	3年生
保護者アンケート			
本校は、黒板の書き方やプリントなどを工夫している。	53.4	60.3	46.0
本校は、教員が指導した学校での過ごし方やルールについて子どもが理解している。	80.5	67.5	65.0
本校は、キャリア・パスポートの目標について子どもに考えさせる指導をしている。	49.1	54.9	43.8
本校は、子どもの進路や将来のことについて考える授業がある。	55.1	72.1	57.6
本校は、進路や将来の仕事に関する情報を提供している。	55.9	66.7	51.1
本校は、丁寧に指導している。	74.6	80.2	67.9
本校は、子どもや保護者が相談しやすい。	74.6	70.2	62.1
子どもは、家庭で宿題やeラーニングなどで学習している。	58.4	45.9	64.2
本校は、近隣の（幼稚園）小・中学校で構成する「学び舎」の（幼稚園）小学校に行ったり、（幼児）小学生が来たりする機会がある。	78.8	65.8	65.7
本校は、様々な便りなどで、保護者に情報を提供している。	91.6	93.7	79.6
本校は、ホームページやメールなどで、保護者に情報を提供している。	84.8	92.8	73.0
「学び舎」の区立（幼稚園）小学校について情報が提供されている。	51.7	62.1	51.1
本校は、学校公開や保護者会などで、生徒の様子が分かる。	83.0	78.4	72.3
本校は、保護者に指導の重点を伝えている。	75.4	74.8	58.4
本校は、教職員が指導の重点を理解して教育活動に取り組んでいる。	61.8	71.2	52.6
「学校運営について」本校は、地域に情報を提供している。	55.9	59.4	40.9
私は、学校公開にすすんで参加している。	53.4	35.1	38.7
私は、今年度の学校の指導の重点を理解している。	47.4	50.4	33.6
本校は、地域の人や施設を教育活動に生かしている。	61.0	64.8	50.4
「地域との連携について」本校は、地域に情報を提供している。	54.2	52.2	41.6
本校は、避難訓練やセーフティ教室などで、子どもに安全に関する指導をしている。	80.5	82.9	70.8
本校は、自然災害時の対応を子どもや保護者に提供している。	78.0	79.3	67.9
我が子はメディアセンター（学校図書館）を十分に活用している。	45.8	29.7	27.7

保護者アンケートには数多くの差がある項目があり、すべてへのコメントは割愛するが特に重要と考える項目は“指導の重点”である。各学年で指導の重点は異なってくるとは

思うが、指導内容についての周知は積極的に行っていただきたい。半数以上の保護者が学校は指導の重点を伝えていると回答しているが理解しているとの回答は大きく下がってしまっている。現状、保護者会は年 2 回と聞いており、各学期に実施することも重要ではないかと提言する。回数を増やすことは教員の負担も増すが、保護者同士の情報交換の場になると考えられ、特に受験を控えた 3 年生の保護者にとっては重要な場になるものと考えられる。さらに、保護者会のほかに学校公開日などにもフリースペースを設けることで会話ができると思われる。こういった活動を促すことで受験や生徒の学校生活について保護者の意識も変えていくことが期待できると考える。

質問項目“本校は、教員が指導した学校での過ごし方やルールについて子どもが理解している。”において 1 年生の保護者が 80%以上と他の学年と比べて高い数値となっており、今年度からのスマートフォンの持ち込み制限についての理解が図れている可能性がある。今後の 2 年間でより追跡していく必要があると考える。

6 読書習慣の経年変化

読書習慣について、生徒には月に 2 冊以上本を読んでいるかを、保護者には我が子が図書館を十分に活用しているかを平成 30 年度から尋ねている。平成 30 年度では月に 2 冊以上本を読む生徒と読まない生徒はどちらも 45%程度だったが、令和元年度から読む生徒は 3 割に減り、読まない生徒は 5 割に増えた。我が子が図書館を十分に活用しているかについての保護者の回答は、平成 30 年度で肯定的な回答が約 4 割で否定的な回答が約 6 割だったが、令和元年度からは肯定的な回答が 2 割台に減った。こうした状況から活字自体に触れていないのではないかと危機感を抱き、一昨年度の独自項目には“月に 2 冊以上漫画を読んでいる。(本、タブレット、スマホなど媒体は問わない)”と新たに加えた。しかし、漫画でも本から離れていることが分かった。

昨年度から“新聞、雑誌、漫画、ネットニュースなど活字メディアを読む習慣がある。”と聞き方を変えた。また、読書習慣と併せて回答の仕方も (A: 毎日 B: 週に 3 回以上 C: 週に 1 回以上 D: 月に 1 回以上 E: まったくない) と変更した。その結果が表 8 に示す。

表 8 読書習慣の調査 (生徒アンケート)

項 目	1 年生	2 年生	3 年生
本を読む習慣がある。(A: 毎日 B: 週に 3 回以上 C: 週に 1 回以上 D: 月に 1 回以上 E: まったくない) ※	A: 14.8	A: 12.2	A: 4.7
本、タブレットなども含む。ページ数は問わない。	B: 21.9	B: 6.1	B: 13.5
	C: 25.8	C: 14.5	C: 17.6
新聞、雑誌、漫画、ネットニュースなど活字メディアを読む習慣がある。(A: 毎日 B: 週に 3 回以上 C: 週に 1 回以上 D: 月に 1 回以上 E: まったくない)	A: 27.3	A: 25.2	A: 36.5
	B: 14.8	B: 24.4	B: 23.0
	C: 19.5	C: 19.8	C: 18.9

この結果から、どの学年も活字メディアには触れている割合が高いことが分かった。しかしながら、3年生の毎日本を読む生徒は4.7%とこれまでで最も低い数値となり、その他の活字メディアは毎日読んでいる割合が急増している。スマートフォンをほぼ全ての生徒が所有していることが考えられ、このような状況となっている可能性がある。小説など本を読み想像力を膨らませることは、他者の痛みや苦しさを理解し本校の特徴である多様性や寛容さを身に付ける方法として重要である。授業内での話し合いの際にタブレットだけでなく本や辞書を活用するなど活字に触れる活動を日頃から取り入れられるよう工夫していただきたい。

7 学校関係者評価委員会としての総合所見

上記の調査内容から以下の5点を本校の課題として指摘する。

- (1) 授業においてICT機器やタブレットを多用するばかりでなく、教科書や板書などのアナログな方法も重要であり、適材適所の活用と研修をお願いしたい。
- (2) ICT機器やタブレットを最大限活用できるよう設備の充足をお願いしたい。体育館にWi-Fiが届きにくいなど課題もあり、世田谷区はiPadを早期に導入したが環境が整備されていなければ使い切れずに終わってしまいかねない。
- (3) スマートフォンの持ち込みの制限は今後も継続して行っていただき、生徒が授業および会話に取り組めるよう環境を整えていただきたい。
- (4) 保護者への指導の重点の周知と理解を図る。保護者との意思疎通で生徒を支えられるよう先生方にはお願いしたい。
- (5) 教育委員会との連携の強化を強く要請するものである。特に、特別支援学級ができることもあり、本学への人材の配置と予算の計上は必要不可欠である。また、部活動の地域移行に向けて指導員の確保を教育委員会が主導して実施していただきたい。

以上

桜丘中学校学校関係者評価委員会委員

大河内康弘 齋藤全祥 實野雅太

鳥海香苗 信國明子（五十音順）

事務局 菊池由美子 片野千晃